

刈谷市地域生活支援拠点等にか かかるアンケート集計結果

刈谷市地域生活支援拠点等検討部会
平成30年9月

アンケート実施概要

1.実施理由

地域生活支援拠点等の整備に向けて、親族等の介護者がいる障害者の方々の「緊急時の受入れ」「体験の場」等、拠点の機能についてのニーズを把握する。

回答を精査し、拠点を整備する上での課題抽出と基本理念の決定の基本情報とする。

【把握事項】

- ・親亡き後の不安やその準備の意向の有無
- ・体験の希望、将来に備える意向の有無
- ・緊急時に必要な支援方法、24時間体制の要否
- ・5つの機能の優先順位の把握

2.対象者

総対象者 約600名

- (1) 家族会 150名
 - ・刈谷市肢体不自由児・者父母の会 (45名)
 - ・刈谷手をつなぐ育成会 (90名)
 - ・刈谷地域精神障害者家族会 (15名)
- (2) 生活介護事業所の利用者
- (3) 就労継続支援A・B型及び
就労移行支援事業所の利用者
- (4) 基幹相談支援センター、こころ悠々の利用者
- (5) 刈谷病院精神科のデイケア利用者

3.期間、配布・回収方法

【期間】

平成30年8月17日～平成30年9月30日

【配布・回収方法】

各家族会、各事業所にて回収。

各所で回収できない場合は、返信用封筒で返送

4.回答結果

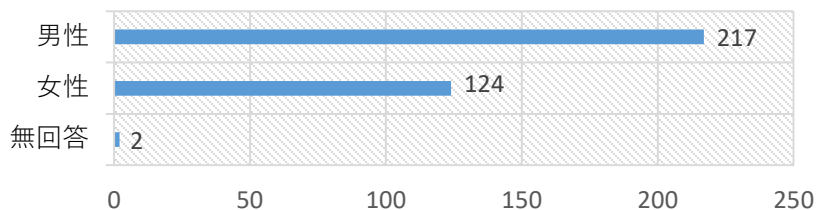
回答数 343件

身体障害	82件
知的障害	186件
精神障害	124件
難病疾患	8件

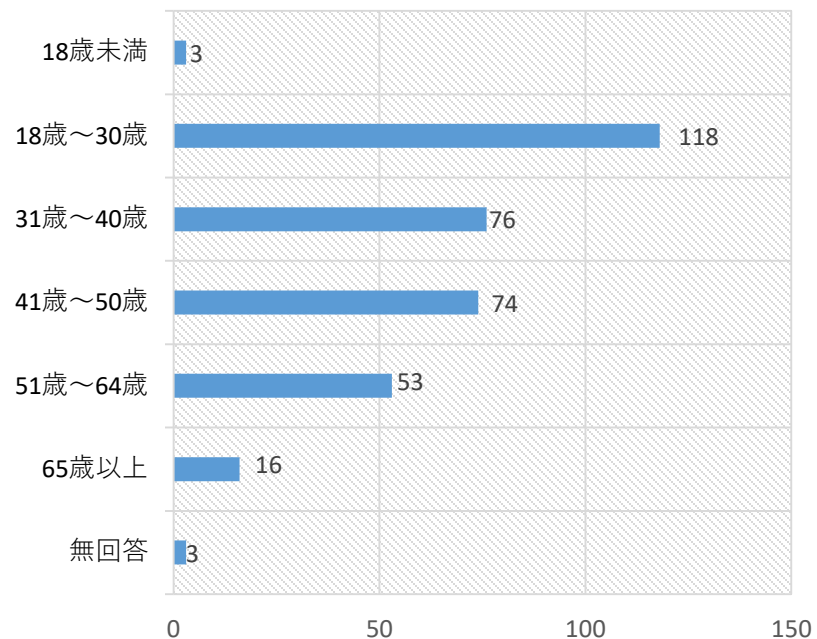
※重複障害者を含むため障害種別ごとの合計数と回答数は相違する

問1～問3 個人情報について

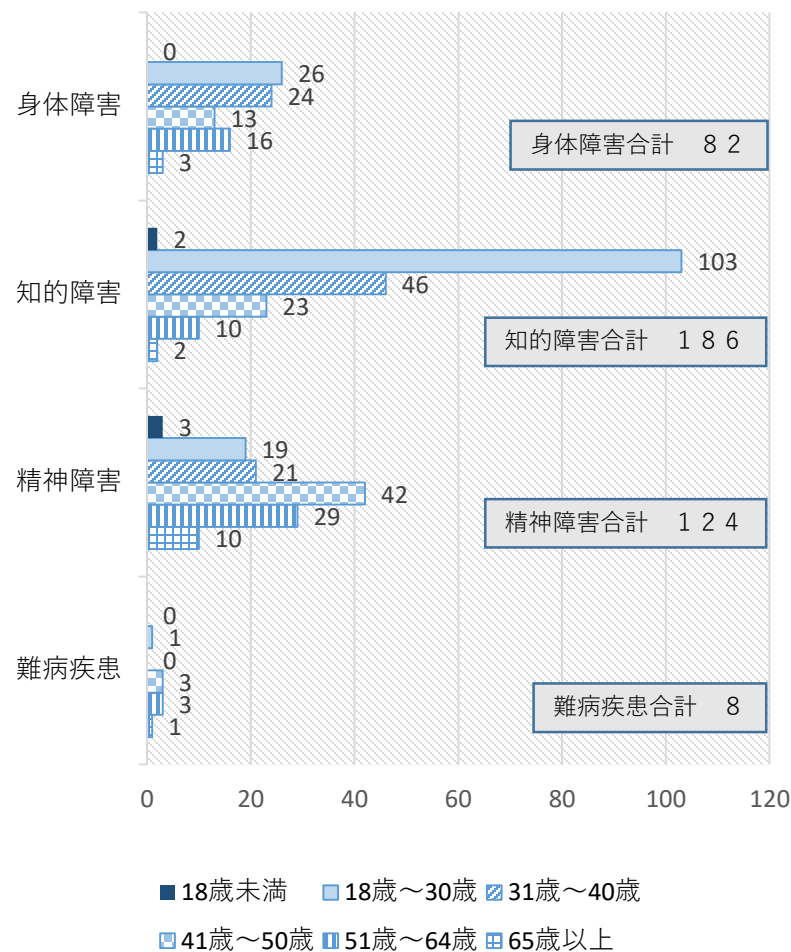
問1 性別



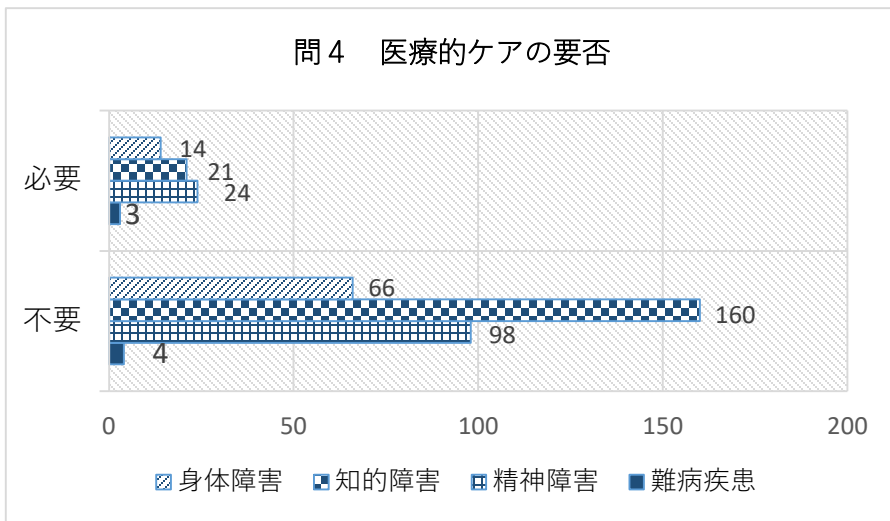
問2 年齢



問3 障害種類



問4 医療的ケアの要否



身体障害分析

医療的ケアが必要な回答は全体の17.5%。

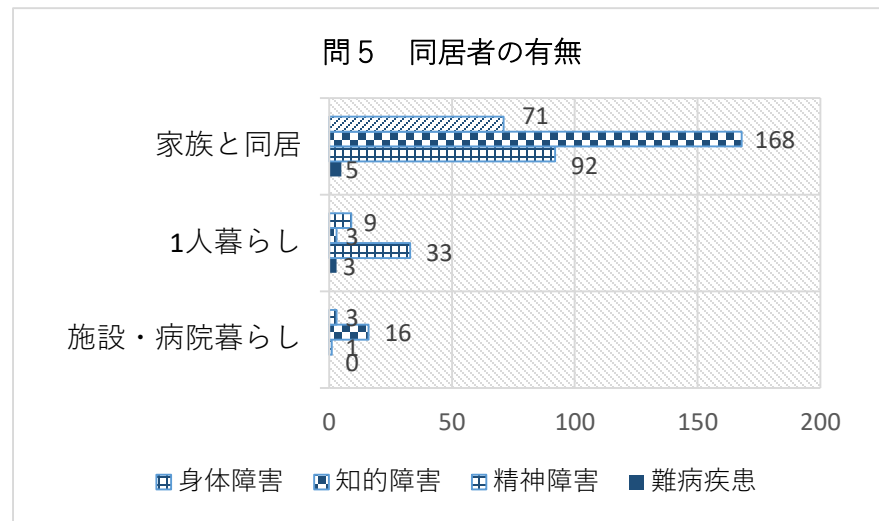
知的障害分析

医療的ケアが必要な回答は全体の11.6%。

精神障害分析

医療的ケアが必要な回答は全体の19.6%。

問5 同居者の有無



身体障害分析

「家族と同居」が86%

知的障害分析

「家族と同居」が90%

精神障害分析

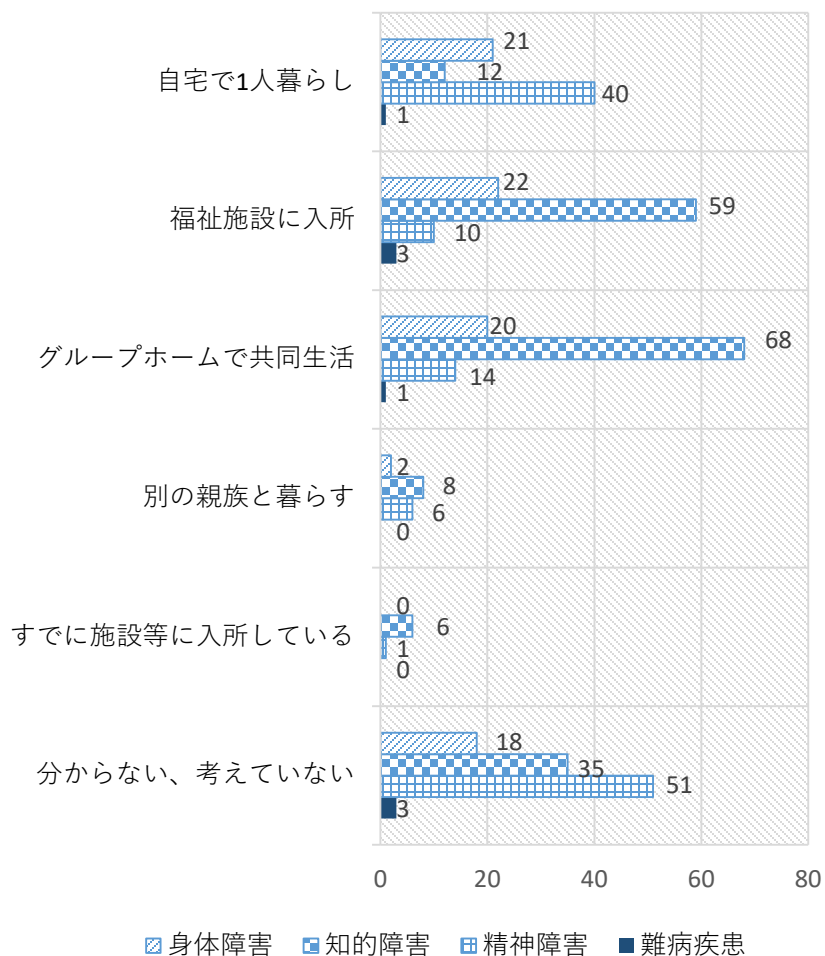
「家族と同居」が73%

「1人暮らし」が26%

○1人暮らしをしている人の割合が高い。

問6 将来の暮らしのあり方

問6 将来、障害が重度化したり、家族と住めなくなったりした場合の暮らし



身体障害分析

「自宅で1人暮らし」が25%

「福祉施設に入所」が27%

「GHで共同生活」が24%

「分からない」が22%

知的障害分析

「自宅で1人暮らし」が6%

「福祉施設に入所」が31%

「GHで共同生活」が36%

「分からない」が19%

○「GHで共同生活」の意見が多い。

○「1人暮らし」の意見が非常に少ない。

精神障害分析

「自宅で1人暮らし」が33%

「福祉施設に入所」が8%

「GHで共同生活」が11%

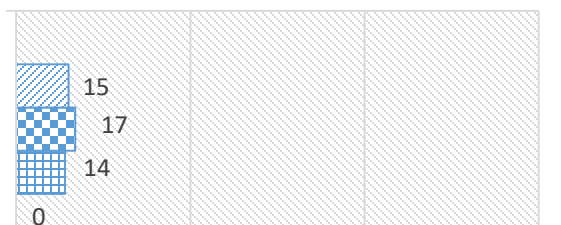
「分からない」が42%

○「1人暮らし」、「分からない」の意見が多い。

問7 親亡き後の時期

問7 親亡き後の時期

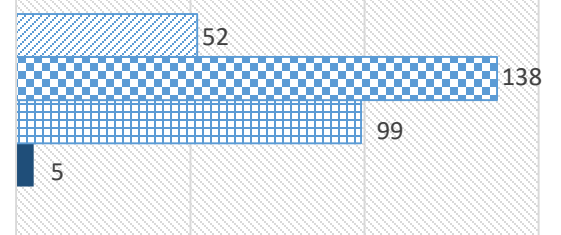
すぐにでも起こる



3年以内



3年以上先



■ 身体障害 ■ 知的障害 ■ 精神障害 ■ 難病疾患

身体障害分析

「すぐにでも」「3年以内」が27%

「3年以上先」が73%

知的障害分析

「すぐにでも」「3年以内」が17%

「3年以上先」が83%

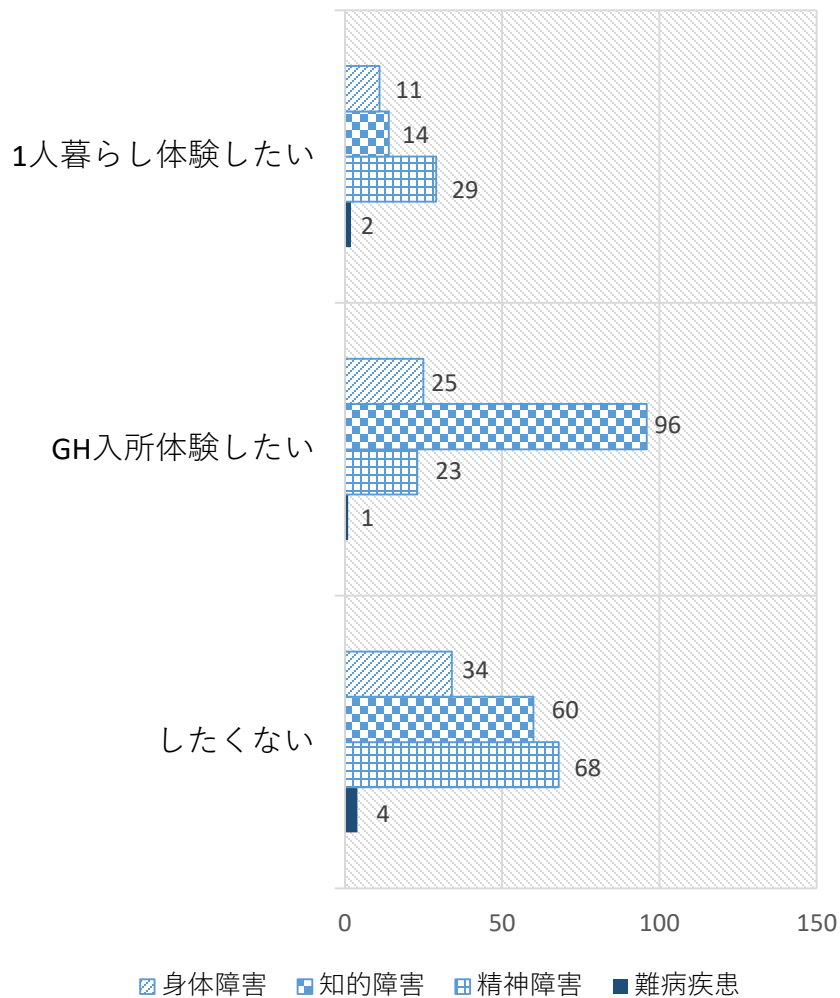
精神障害分析

「すぐにでも」「3年以内」が18%

「3年以上先」が82%

問 8 体験の機会・場

問 8 一人暮らし体験・GH入所希望



身体障害分析

「一人暮らし体験したい」が16%

「GH入所体験したい」が36%

「利用したくない」が48%

○GHの体験希望が多い。

知的障害分析

「一人暮らし体験したい」が8%

「GH入所体験したい」が57%

「利用したくない」が35%

○GHの体験希望が非常に多い。

精神障害分析

「一人暮らし体験したい」が24%

「GH入所体験したい」が19%

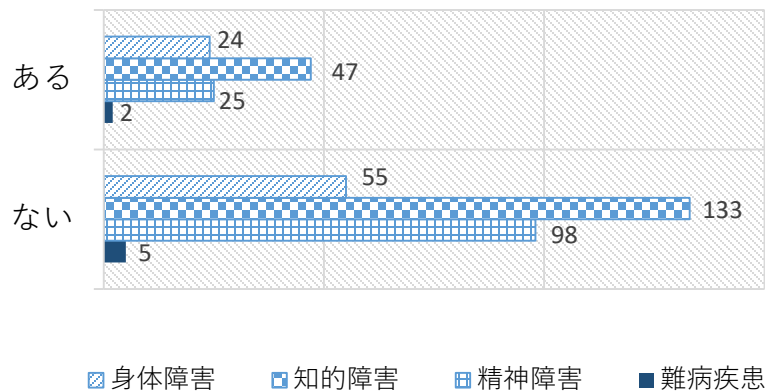
「利用したくない」が57%

○利用希望しない人が半数以上で体験に消極的。

○一人暮らしの体験希望が多い。

問9 緊急時の有無

問9 自宅での生活ができなくなるような緊急の状況になったことがありますか



身体障害分析

「緊急時になったことがある」が30%

「緊急時になったことがない」が70%

○緊急時の経験が比較的多い。

知的障害分析

「緊急時になったことがある」が26%

「緊急時になったことがない」が74%

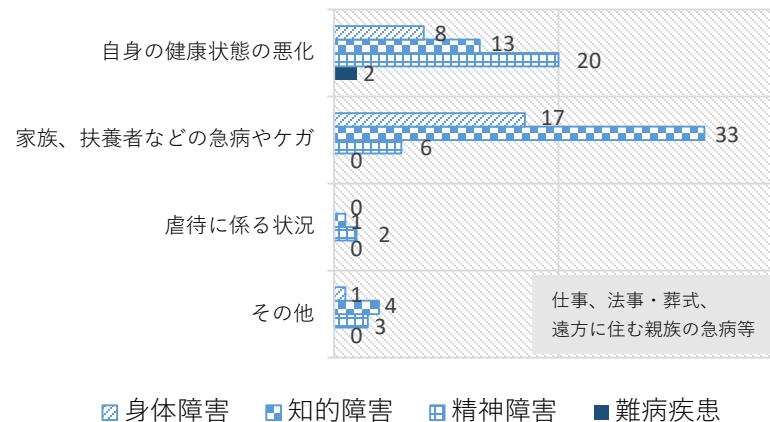
精神障害分析

「緊急時になったことがある」が20%

「緊急時になったことがない」が80%

問10 緊急時の詳細

問10 問9はどのような緊急の状況か



身体障害分析

「自身の健康状態の悪化」が31%

「家族、扶養者の急病やケガ」が65%

知的障害分析

「自身の健康状態の悪化」が25%

「家族、扶養者の急病やケガ」が65%

精神障害分析

「自身の健康状態の悪化」が65%

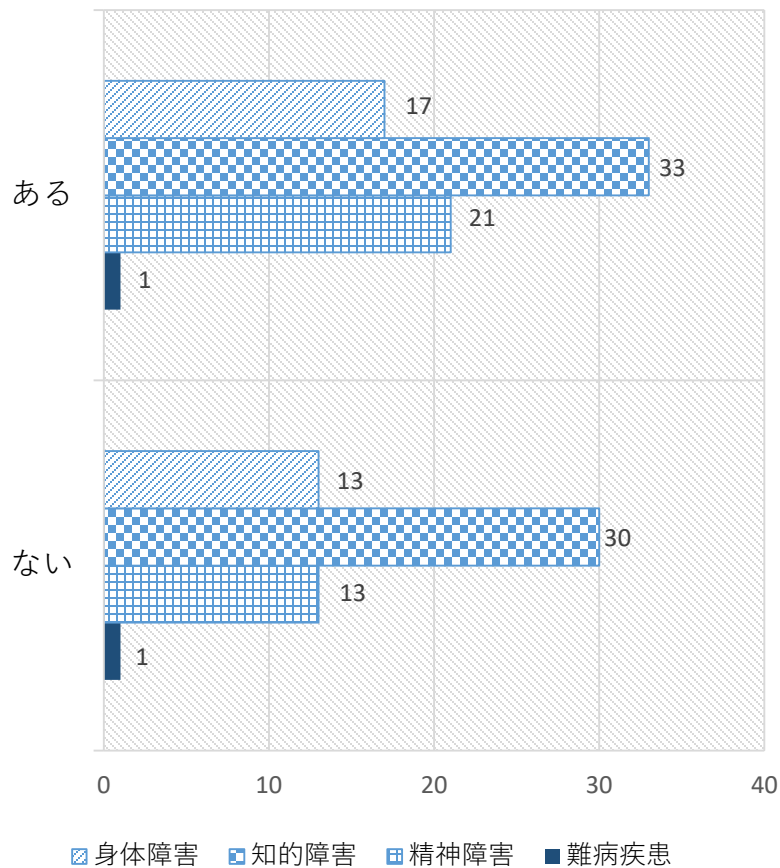
「家族、扶養者の急病やケガ」が19%

○自身の健康状態の悪化が非常に多い。

問11 夜間・土日の緊急時相談について

問11 夜間や土日に家族以外の人や機関に相談した
くなったことがあるか

※問9・問10で緊急時あると答えた方のみ回答



身体障害分析

「相談したくなったことがある」が57%

「相談したくなったことがない」が43%

○夜間・土日の緊急時の経験が多い。

知的障害分析

「相談したくなったことがある」が52%

「相談したくなったことがない」が48%

精神障害分析

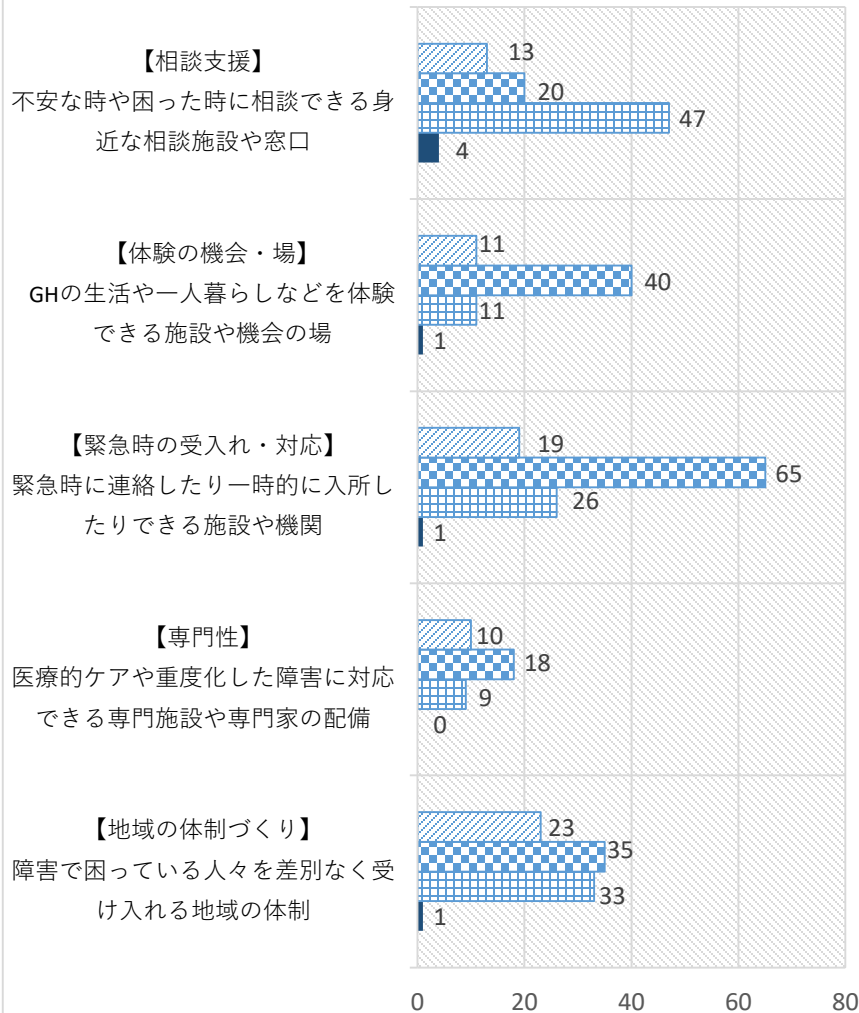
「相談したくなったことがある」が62%

「相談したくなったことがない」が38%

○夜間・土日の緊急時の経験が多い。

問 1 2 拠点の5機能の優先順位

問 1 2 拠点5機能の中であると安心できるサービスや施設



身体障害分析

「相談支援」が17%
 「体験の機会・場」が15%
 「緊急時の受入れ・対応」25%
 「専門性」が13%
 「地域の体制づくり」が30%

○「地域の体制づくり」を求める声が多い。

知的障害分析

「相談支援」が11%
 「体験の機会・場」が22%
 「緊急時の受入れ・対応」37%
 「専門性」が10%
 「地域の体制づくり」が20%

○「緊急時」を求める声が多い。
 ○身体、精神に比べ「体験」の需要が高い。

精神障害分析

「相談支援」が37%
 「体験の機会・場」が9%
 「緊急時の受入れ・対応」21%
 「専門性」が7%
 「地域の体制づくり」が26%

○「相談支援」を求める声が多い。
 ○「体験」の需要が非常に低い。

問 1 3 拠点5機能への自由記入欄（身体）

機 能	要望・意見
①相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口到手話通訳があるとありがたい。 ・文章を読んで理解することが難しいので、定期的に訪問していただける民生委員等がいてほしい。
②体験の機会・場	<ul style="list-style-type: none"> ・この先、両親が高齢になっていくと、本人の介護も十分に出来なくなると思う。現在ショートステイで入所の練習をしているが、入所施設は予約しても利用が1年先という状況である。10年以内の入所も視野に入れ、もっとショートステイも含め、生活体験できる環境が整うといいと思う。また、職員不足が気になるので、もっと増えてほしい。
③緊急時の受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時こそ精神的に不安定になりやすいので、本人が知っている人たちに囲まれて、いつもの生活を変えることがないようにしてあげたい。GHの開所日が365日になるとある程度の問題が解決する。 ・家族からの介護が出来ない状況が発生した時、対応できる施設があるとよい。 ・24時間フルで対応できる施設、利用者の立場になって親身に対応していただける施設があるとよい。 ・家族、親の急病入院時の一時的入所が難しかった。家族・兄弟とケアホームで何とか乗り切れました。 ・市内に土日にショートステイができる施設があるとよい。
④専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・コロニーのように病院内または病院の隣でショートステイができるところが刈谷にあるとよい。 ・グループホームなど親亡き後でも安心して終のすみかになれる様、医療的ケアもグループホームに任せられる体制を作してほしい。
⑤地域の体制づくり	
⑥その他	<ul style="list-style-type: none"> ・施設（グループホーム）が自宅、通所施設から遠い北部に集中しているので、南部にあればよいと思う。 ・グループホームの数が少ないように感じる。新しくグループホームが増えるといいと思う。 ・すぎな作業所に通所している。すぎな作業所の近くにもグループホームであったり、入所施設などを建ててほしい。グループホームに入ると、今通っているすぎな作業所が遠くなるのは大きなデメリットである。

身体障害のある人では、親亡き後の生活の場としてグループホームの充実や緊急時や生活体験の場として利用するためのショートステイ施設等の整備が求められている。

問 1 3 拠点5機能への自由記入欄（知的）

機 能	要望・意見
①相談支援	
②体験の機会・場	<ul style="list-style-type: none"> 施設、グループホームに将来入るにしても、本人に関してあらゆる見通しが出来ず不安である。回数を重ねて練習させないと不安なので、体験できる場が気軽に利用できるとよい。 現在ショートステイも練習しているが、予約して1年先の利用という状況である。10年以内の入所も視野に入れ、もっとショートステイも含め、生活体験も増やしていける環境が整うといいと思う。また、職員不足が気になるので、もっと増やしてほしい。外国人の雇用などはどうか。 一般就労しており、給料は手取りで14～15万程度でボーナスは10～20万程度。将来は一人暮らしを考えているので経済的な不安がある。一人暮らしなどの練習する機会が欲しい。 グループホーム体験の1週間は長すぎます。2～3日でできないか。
③緊急時の受入れ	<ul style="list-style-type: none"> 当日に申し込んで数時間預かってもらえる施設があるとよい。 親に何かあった場合、緊急に保護（入所）をお願いすることが確実にできず、不安を感じている。 社会福祉協議会などに相談窓口が欲しい。夜間でも緊急連絡できる相談窓口がほしい。 親（介助者）が病気など緊急時に一時的に見守ってくれる場所があるとよい。本人が病気の時、親が休めない時、見守ってくれる場所がほしい。 日中一時や短期入所が緊急時に入れると大変助かる。そういった施設がもう少し増えることを願う。
④専門性	<ul style="list-style-type: none"> てんかん発作や導尿などの排泄面でうまくいかない時にケアしていただける場所があるとよいと思う。 親も高齢になりつつあり、医療的ケアのある安心して入所できる施設がほしい。余裕のある老人施設と連携して、医療的ケアの必要な障害者のショートステイを検討してはどうか。親亡き後は、入所や365日型のグループホームが望ましい。
⑤地域の体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> 家族的な心の持ち主によるサービス、賃貸の一人暮らしを親身に見守ってくれる地域の体制がほしい。 学区など地域での福祉施設の充実。ファミリー・サポート・センターのような有償ボランティアで預かってくれるようなシステムの確立。就労系事業所、グループホーム及び入所施設なども拡充してほしい。
⑥その他	<ul style="list-style-type: none"> 休日、土曜日、日曜日に利用できる「日中一時サービス」が増えると助かる。 刈谷市では北部や中部には入所施設がありますが、南部には少ないので、施設やグループホームを作してほしい。 サービスや施設を作っても担う人が少ないために支援ができていないので、障害のある人達に接する人を増やすとよい。もっと障害について知る機会を作してほしい。制度ばかり難しく支援が整っていない。 障害のある人をフォローしてくれる団体が限られているので、もっと増やしてほしい。一般就労できた後でも定期的にフォローしてくれる所が欲しい。

知的障害のある人では、ショートステイやグループホームなどの生活体験や練習の場や親（介助者）が病気など緊急の時に一時的に預かってもらえる支援機関が求められている。また、日中活動系サービスの充実を求める要望も多い。

問 1 3 拠点5機能への自由記入欄（精神）

機 能	要望・意見
①相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県外の就職先を斡旋してくれる所。遠い所でも自分について相談できるホットラインがあるとよい。 ・ 小さな事でも相談できる開かれた相談施設。地域福祉を担う団体での充実した人材の育成。いつでも対応してもらえるように担当者が24時間交代で勤務してほしい。 ・ 電話、窓口や直接施設へ訪れるだけでなく、SNS等でも対応していただけるとより身近で気軽に相談しやすいと思う。 ・ 年金などの生活費の面でまじめに話を聞いて、橋渡しをしてくれるサービスを求める。
②体験の機会・場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般就労しており給料は手取りで14～15万程度。将来は一人暮らしを考えているので経済的な不安があることと、練習する機会が欲しい。
③緊急時の受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 状態が思わしくない時や不安な時に、宿泊できる仲間がいる居場所があるといいと思う。その居場所で泊まらなくても日中に集まりみんなの話し場がほしいです。 ・ 今は家族が元気で一緒に生活できているが、家族の環境が変わると母1人での本人の支援に不安がある。急ぎはしないが、母に何かあった時の受け入れ先があるとよい。 ・ 18歳以降に作業所の利用後に過ごす場所、土日の余暇の場がほしい。親が見れなくなった時の生活の場、支援してもらえるところが欲しい。18歳以降の支援がとても少ないので、不安で仕方ない。
④専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療的ケアのできる専門施設やサービスが、各地域に小さくても身近にあるとよい。自分で行ける範囲にあると心強い。
⑤地域の体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 困った状況の時に自ら相談に行くことは難しいので、定期的な本人への聞き取りが必要。職場や事業所としっかりしたつながりを持った窓口も必要。相談支援からほかの機能へつながってほしい。 ・ 自分から連絡できない障害のある人に対して、定期的に訪問し、状況を確認し、適切な対応ができる体制。
⑥その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者雇用の拡大。 ・ 本人は会話が苦手で困っていても誰かに相談することはできないので、グループホームで施設の方に様子をみてもらいながら生活していくことを希望。

精神障害のある人では、相談しやすい相談体制と相談後に適切な支援が受けられる体制の充実が求められている。また、親（介助者）が介助できなくなった後の生活を見据え、グループホーム等の生活の場の整備が求められている。